

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870 10 4811
法人名	有限会社ライフサポートさくら草
事業所名	グループホーム軽井沢
所在地	松山市南斎院町乙19番地5
自己評価作成日	平成28年9月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員と利用者が共に支えあい家族のような関係を築いていけるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>現在、月1回、利用者の希望を聞いて食事を手作りしており、赤飯やてんぷら、ちらし寿司等を利用者と一緒で作って食事を楽しんでいる。</p> <p>外食の希望はあるが、食べたいものを聞くと「何でもええよ」と言われるようで、職員から提案等して、数名ずつでおやつを食べに行ったり、うどんやラーメンを食べに行っている。ドーナツ店では、車いすの利用者が入りやすいように、店員がドアを開けてくれる等、協力してくれている。</p> <p>夫婦で外食するような時には、職員が送迎しており、夫婦でゆっくり過ごせるよう配慮して支援している。団地内の美容院まで職員が送迎している。祭りが好きな利用者は、秋祭りの際には自宅に外泊で切るよう支援している。</p> <p>団地内の自主防災訓練時には、職員・利用者2名ずつで参加し、地域の方達と一緒に消火訓練や起震車体験等を行った。</p>

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム軽井沢

(ユニット名) ぽんかん

記入者(管理者)

氏名 林紀彦

評価完了日 28年 9月 5日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 玄関に理念を掲示しており 「一人一人に寄り添う」という理念に 職員一同努めている。	
			(外部評価) 開設時につくった「心の視線を合わせ、お一人お一人必要 な存在であり、ご自身の居場所と確信して頂けるよう支援さ せて頂く」という介護理念を玄関に掲示している。管理者は、 職員採用時に理念について説明している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事などには参加して交流している 近所の保育園にはクリスマスプレゼントを毎年、 届けている。 また保育園からは敬老の日に訪問してもらっている。	
			(外部評価) 行事案内を町内会の掲示板に貼ったり、ポスティング等して 地域の方に参加してもらえるよう取り組んでいる。花火大会 の際には、子どものいる家庭にポスティングして3～4名の参 加につながった。保育園との交流を継続しており、小学校か らは、事業の一環で児童の訪問がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 出来ていないので、行事などに参加して頂き、 認知症の人の事をもっと理解してもらえよう努めたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヵ月に一回行っている。職員が研修で学んだことを発表したり、勉強した事などと合わせてホームの様子など事業所の取組みについて意見を出し合いサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 会議には、市や地域包括支援センターの担当者、家族一名と民生委員である法人関係者が参加している。会議時には、活動状況を報告したり、職員が受講した研修について、内容や感想を発表している。会議への地域の方の参加は少なく、課題となっており、現在、案内配布の範囲を広げている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 二ヵ月に一回の推進会議に参加して頂いて意見や、私達ではわからない事などを、ご指導頂いたり相談をもちかけたりしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、事故、ヒヤリ・ハットについて報告した際、市の担当者から様式についてアドバイスがあり改善した。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について勉強会を開き職員全員で話し合いの場をもち拘束しないケアに努めている。	
			(外部評価) 職員は年1回、内部研修で身体拘束について勉強している。玄関は開放している。居間からそのままベランダに出られ、眼下に高校のグラウンドや市内の街並みが見渡せて開放感がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き、職員全員で虐待について話し合いの場をもち虐待防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解しがたい事だと思う。 わかりやすく自分なりに勉強会などに参加して理解して行きたいと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ご家族や本人様によく説明し、納得された上でお話をさせて頂いていると思っっている。 不安な事や気になる事があればいつでも尋ねて下さいとお伝えしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の来所時には、家族とのコミュニケーションを行い要望を聞き出す努力をしている。 要望があった場合は職員間で周知しケアの向上に努めている。 (外部評価) 家族には、月1回事業所便りと状況を書いた手紙を送付している。食事形態や排泄状況等については、来訪時や電話にて報告している。以前行っていた家族会は、この一年は開催していないが、そうめん流しを行った際には家族も誘い、2~3名の方の参加があった。家族に意見や希望等を聞くが、「お任せします」と言われることが多い。	家族と一緒に活動するような機会作りを工夫してほしい。事業所のことをさらに知ってもらい、意見や要望を引き出せるような取り組みを工夫してほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ユニット会や朝の申し送りで気になる事や改善したほうが良いと意見があればそれを取り入れてやっている。	
			(外部評価)	
			管理者は、職員の様子をみながら必要時に面談したり、時には、休憩を取るよう促したりして、ストレス軽減に向けた取り組みに努めている。介護職員の悩みを外部に相談できるホットラインの窓口を明示して、職員に知らせている。クリスマス会の際には、職員でダンスを練習して利用者の前で披露した。	職員がお互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるように、職員会議の雰囲気や場づくりを工夫してみしてほしい。又、事業所の質を高めていくためにも、職員が知識や技術アップできるような取り組みに力を入れてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			個々の意見や提案、就業環境の把握に努めている。又、職場環境の整備に努め、改善が必要な時は要望していくよう取り組んでいる。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修会の案内を用意したり、研修への参加を促している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			出来ていないのでこれからの課題として取り組んでいきたい。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			相談時にご家族とご本人と面談し、希望や不安なことを聞き出し、受けとめるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>相談時に家族が困っていること、不安または希望をじっくり伺いそれらの解消に努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族とよく話し合い、ケアプランを作成している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員が一方向的に介護するのではなく利用者と共に支え合いながら生活してもらえよう関係作りに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月のお手紙や電話をとおして家族と職員が共に支えていける関係を築くとともに本人と家族の距離が離れないように心がけている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所する前にいつも行かれていた場所等を日々の生活で把握し連れて行ってあげられるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>夫婦で外食するような時には、職員が送迎しており、夫婦でゆっくり過ごせるよう配慮して支援している。団地内の美容院まで職員が送迎している。祭りが好きな利用者は、秋祭りの際には自宅に外泊で切るよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者自身の性格や個性を把握し職員が間に入り、会話や関係性を築ける場を作っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) どんなサービスの終了の形であっても、その後の利用者や家族の状況把握、相談できるような関係作りに努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者、また家族にも思いや希望をたずねその意向に向けての暮らし方を職員間で話し合っている。	
			(外部評価) 入居時には、利用者の基本となる情報をまとめており、その後は介護計画を作成する際に、日常生活動作の現状把握を行っている。	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境等についての情報を整理して支援につなげてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前、入所後も利用者、家族からのアセスメントや情報の把握、共有に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人のペースに合わせた日々の過ごし方や有する力を発揮できるような声掛けの仕方や場作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			本人の思いや家族の希望をたずねたり、日頃の暮らしでの気付きを職員間で話し合う場を設け、ケアカンファレンスやサービス計画書に残している。	
			(外部評価)	
			介護計画は、半年ごとに担当職員が評価してカンファレンスで話し合い、見直しを行っている。カンファレンスに家族が出席するようなケースもある。計画には番号を振り、支援を実践した時には、介護記録内に支援した時間と番号を記入している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			細かい気付きなども職員一人ひとりが、介護記録に記入し、また申し送りも口頭や記録に残し、見直しや実践に生かしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			その時の状況に応じ、本人や家族、職員や関係者の意見を聞き、より良いサービスができるよう努めている。	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域との隔てや孤立ができないよう、推進会議や行事ごとにお知らせをしたり、また地域内での行事や訓練などにも参加し関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前にかかりつけ医の希望を本人、御家族と話し合っており、状態の変化により、その都度受診する医療機関が選択できるように支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>家族と相談して利用者個々のかかりつけ医を受診できるよう支援している。必要時には、24時間対応可能な協力医に診てもらえるよう支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日常の様子や変化を報告できている。またわからない事を相談したりアドバイスを受けている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>早期退院に向け、医療機関からの情報収集や主治医への情報提供ができています。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前に終末期のあり方について、本人、御家族と話し合いを行っている。また状態に応じてその都度終末期の方向性を本人、御家族と話し合っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>看取りを支援した事例が数例ある。家族に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について説明を行い、話し合いを重ねながら理解や納得のいくような支援に努めている。ストレッチャーを整備しており、寝たきりの状態になっても入浴できるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救命講習は受けているが、全職員が周知が実践力を身につけているとはいえない。定期的に勉強会を行いたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 職員全員が周知しているとはいえない。地域への協力の呼びかけ地域に対してできることを考えて協力体制を築きたい。 (外部評価) 年2回、日中、夜間の火災を想定した避難訓練を行っている。団地内の自主防災訓練時には、職員・利用者2名ずつで参加し、地域の方達と一緒に消火訓練や起震車体験等を行った。	災害はいつ起こるかわからないことでもあり、立地条件等も踏まえて具体的な対応マニュアルを整備し、マニュアルに沿った訓練を行ってほしい。備蓄の整備にも取り組んでほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 選択できるような場面を作っており言葉かけをしている、個々に応じた援助方法ができてないことがあり、職員全体で個々に応じた援助方法を話し合う必要がある。 (外部評価) 利用者によって落ち着く椅子で食事できるよう支援したり、利用者同士の関係等も踏まえて少し離れた場所で食事する等、それぞれに応じた席を決めている。午後から職員は「おやつ飲み物はコーヒーにする？」等と相談していた。	利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行ってほしい。評価の機会を活かして職員のかかわり方について、配慮や工夫できることはないか話し合ってみてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) どんな時でも本人の希望を尊重できるように、選択していただけるような言葉かけをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調を把握し、一人ひとりのペース、体調、気持ちをくみ取りながら支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容に気を配り、定期的に美容室など利用していただき季節ごとの服装ができるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日頃から利用者と食事の準備や後片付けを行っている。また食べたい物があれば、メニューに反映したり、外食の機会を設けている。 (外部評価) 主食と汁物は事業所で作っているが、副食は、離れた場所にある法人の厨房施設から届き、温める等して配膳している。職員は介助等に徹しており、時間をずらして各自持参したお弁当を食べている。現在、月1回、利用者の希望を聞いて食事を手作りしており、赤飯やてんぷら、ちらし寿司等を利用者と一緒に作り、食事を楽しんでいる。調査訪問時には、食後、自主的にお盆やテーブルを拭く利用者の様子が見られた。	さらに、普段の食事も楽しむことができるように支援の工夫が期待される。利用者の立場に立って、グループホームだからできる食事支援のあり方について話し合ってみてはどうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスやカロリー摂取はバランスよくできている。体重や体調の増減により水分補給や食事の量など、記録に残し一人一人の状態に応じた支援を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの力に応じた、口腔ケアの、声掛け、見守り、介助の支援をしている。義歯使用されている方は、夕食後、ポリドントなどを使用し洗浄、消毒している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)		
				排泄記録など使用し一人ひとりの排泄パターンなど、把握しトイレでの排泄を促す支援をしている。	
			(外部評価)		
				排泄記録で状況を把握し、声かけや誘導等を行い支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)		
				身体を動かしていただけるよう体操や散歩の声掛けを行っている。ごぼう茶、ヨーグルトなど個々の状態により提供している。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)		
				入浴日は決めていますが希望があれば入浴できるようにしている。また湯船に入れない方は特浴にて入浴してもらっている。	
			(外部評価)		
				入浴表を作り、利用者個々に3日に1回入浴できるよう支援している。職員の人数の都合もあり、入浴時間は午前中になっている。入浴の希望を言う利用者はいないので、個々に声をかけて支援している。声かけを断る利用者には時間を置いたり、職員が替わって誘う等して入浴につなげている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)		
				その人の体調や睡眠状況によって休憩時間を確保している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの介護記録に処方箋をつけている。また薬が変更になった時等は、毎朝の申し送り(ノートにも記入)にて職員全員が把握するようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者が頼りにされている、活躍できる場面作りを提供できるようにしている。(盛りつけ、洗濯物たたみ等)お酒の好きな方にはその日の体調をみてお出ししている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日などはドライブや喫茶店などに出かけている。入居者とその奥様とは出かけたりしているが地域の人達と出かける事はない。	
			(外部評価) 外食の希望はあるが、食べたいものを聞くと「何でもええよ」と言われるようで、職員から提案等して、数名ずつでおやつを食べに行ったり、うどんやラーメンを食べに行っている。ドーナツ店では、車いすの利用者が入りやすいように店員がドアを開けてくれる等、協力してくれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 前まではご自分で財布を持たれ買い物に行ったりしたら自分で払っていただいていたが今は全員事業所で管理している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでもかけられるようにしている。文通をされている方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			時間帯によってカーテンを閉めたり開けたりしている。温度計や利用者の声を聞きながら室内の温度調節を行っている。	
			(外部評価)	
			玄関から入るとすぐに居間があり、テレビを点けていて、見たい方が椅子を移動してみている。テレビの背面の窓から光が入る時間帯は、職員がカーテンを閉めていた。ユニットをつなぐ廊下には、行事等の写真を掲示している。さらに今後は、季節感があるものや活動意欲を触発するような物品等も用意して、利用者が主体的に活動したり、楽しめるような空間作りに工夫を重ねてほしい。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			リビングから少し離れた所にソファを置き定席で過ごしたり、ソファで過ごしたりと一人ひとりが自由に過ごしてもらるようにしている。食卓の座席の配置には気を配るようにしている。	
			(外部評価)	
			今まで使いたなかったもの使用していただくようにしている。また新しい物を購入する時は一緒に行っている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			片まひのある利用者のベッドサイドにはマラカスを用意しており、必要時に鳴らして職員を呼べるようにしている。長時間ベッド上で過ごす方の居室は入口のドアを開けていた。歌の好きな利用者は、お気に入りの歌手のポスターを貼っていた。面会日や受診日等が分かるよう、家族が印を付けたカレンダーを貼っている方ある。	
			(外部評価)	
			廊下、トイレ、浴室に手すりがあり利用者が安全に生活できるようにしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			(外部評価)	